

## ニセコ向日葵倶楽部におじゃましました！

今回は、ヒマワリを栽培しているニセコ向日葵倶楽部(代表の大田和広さん)をご紹介します。

ニセコ町は羊蹄山とニセコ連山に囲まれ、農業と観光が盛んな自然の豊かな町です。

### ●栽培の始まり

ニセコ町におけるヒマワリの生産は、農業所得の向上とニセコ町の新たな特産品づくりを目指して、平成9年に農業者7戸でニセコ向日葵倶楽部が設立されました。

途中、構成員の経営転換や離農のため、現在の構成員は4戸と減少しましたが、構成員の結束はより強まり、平成22年には、小さな組織であるにも関わらず新規作物の導入にチャレンジし、町の特産物の一つとして定着させた功績から、ニセコ町産業貢献賞も受賞しています。

また、ヒマワリは切花としての出荷だけではなく、地力の増進や景観形成用の作物としても地域で振興しており、羊蹄山やニセコアンヌプリの景観ともマッチして、大きな観光資源ともなっています。



羊蹄山を背景にしたヒマワリ

### ●ヒマワリの品種

現在、栽培している品種はミニヒマワリのサンリッチオレンジ、サンリッチマンゴーが中心ですが、昨年からは花びらがより大きいビンセントタンジェリンの生産にも取り組んでいます。

### ●栽培の特色

生産を始めた当時は、今のような切り花用のミニヒマワリの品種がなかったので、花芯の大きな品種を根域制限することにより、切り花に向く小さな花を咲かせる技術を導入しました。



ヒマワリの選別作業



選別済みのヒマワリ

品種がミニヒマワリに変わった今も、この技術と自動灌水装置を使わずに花の様子を見ながら手で灌水する小忠実な管理の組み合わせによって、花の大きさの揃いが良く、茎が強く、日持ちの良いヒマワリを一定のロットで生産・出荷し、市場からも高い評価を得ています。

### ●取材を終えて

代表の大田さんからは、取材中にこのレポートに書き切れないたくさんのお話を教えていただきました。

特に今の時期はハウス内のヒマワリの管理、収穫と出荷、収穫後の後始末と今後に向けた新たな播種と全ての作業が重なる一番忙しい時期にも関わらず、快く対応してくださった大田さん、関係者のみなさん、ありがとうございました。



予冷庫の中で出荷を待つヒマワリ



代表の大田さん